

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題	第3回ホットフライングディスク大会を開催して 酸素運搬ロボットを用いた大会運営
著者	鎚木武, 大平峰子, 小谷素子, 遠藤玄, 入部正継, 田窪敏夫, 石川朗
出典	第23回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会プログラム・抄録集, , , C1-017
発行日	2013, 10
Note	このファイルは著者（最終）版です。

第3回ホットフライングディスク大会を開催して—酸素運搬ロボットを用いた大会運営—

長野市民病院リハビリテーション科¹⁾, 東長野病院²⁾, 小谷医院³⁾, 東京工業大学⁴⁾, 大阪電気通信大学⁵⁾, 東京女子医科大学⁶⁾, 神戸大学大学院⁷⁾, 北信ながいき呼吸体操研究会⁸⁾, 北信フライングディスククラブ⁹⁾

○鏑木 武^{1,8,9)}, 大平峰子^{2,8,9)}, 小谷素子^{3,8,9)}, 遠藤 玄⁴⁾, 入部正継⁵⁾, 田窪敏夫⁶⁾, 石川朗^{7,8)}

【目的】我々は、HOT患者を対象としたフライングデスク（FD）大会を毎年開催し、3回目となる。今回は、酸素運搬ロボットが酸素ボンベの運搬を担当し、大会を開催したのでその模様を報告する。FD競技とは直径約91.5cmの円形ゴールに、5または7m離れたところからディスクを10枚投げ、ゴールを通過した回数を競う。

【対象】HOT実施中の18名（男性14名、女性4名）平均年齢75.2±4.7歳、疾患の内訳はCOPD9名、肺結核後遺症5名、その他4名。

【方法】北信FDクラブが主催し参加者を募り、当日の運営は、ボランティアスタッフ18名、酸素運搬ロボットスタッフ9名が担当した。県内外から医療関係者の来賓6名を招き、開会式、ながいき呼吸体操、FD競技を2回実施、その後来賓、家族も競技に参加し、表彰・閉会式を行い、約2時間の大会を開催した。

【考察】我々はこれからも、FDをはじめとして酸素運搬ロボットなど、HOT患者さんに有意義と考えられることに積極的に取り組み、QOL向上に繋がることを発信していくためにFD大会を継続していきたい。